

## この本を探しています!! WANTED!

5月22日(水)～6月5日(木) 図書館の蔵書点検を実施しました。図書のバーコードを読み取って、本が正しい場所に並んでいるか、行方不明になっている本はないかを確認する作業です。その結果、19冊の行方が分からなくなっています。数年前から見つからない本もあります。

もしどこかで見かけたら、図書館まで持って来てください。よろしくお願いします!!

『修造ドリル』	松岡修造／著	アスコム	159/マツ
『誰だっちょと落ちこぼれ』	河合隼雄／著	講談社	159/カリ
『打倒! センター試験の現代文』	石原千秋／著	筑摩書房	817/イシ
『フグはなぜ毒で死なないか』	吉葉繁雄／著	講談社	481/ヨシ(2)
『徹底図解! 誰でもよくわかるサッカー戦術、フォーメーション事典』	都並敏史／監修	実業之日本社	783/ツタ
『影男』	江戸川乱歩／著	東京創元社	913/エト/10
『現代用語の基礎知識2017』		自由国民社	031/シュ
『命うります』	三島由紀夫／著	筑摩書房	913/ミシ
『きりこについて』	西加奈子／著	角川書店	913/ニシ
『友情・初恋』	武者小路実篤／著	集英社	913/ムシ
『演劇は道具だ』	宮沢章夫／著	イースト・プレス	770/ミヤ
『高校生のための実践演劇講座』第1巻、第2巻	つかこうへい／監修	白水社	771/コウ
『NHK 英語で勝負』1	小林薫／著	日本放送出版協会	837/コバ/1
『魔法科高校の劣等生』1	佐島勤／著	アスキー	913/サト/1
『太陽の塔』	森見登美彦／著	新潮社	913/モリ
『声優になるには』	山本健翔／著	ペリかん社	366/ナル
『大人になるということ』	佐藤忠男／著	岩波書店	159/サト
『学習漫画 世界の伝記』17ノーベル		集英社	280/シュ

## 松高生のおすすめ本!!



### 『少年アリス 改造版』 長野まゆみ／著

この本に出てくるアリスとはちみつが夜の学校で、不思議な世界に巻き込まれてしまう所がドキドキした。アリスとはちみつの2人が互いを信じて不思議な世界から脱出しようとしている所が、心にささった。

(15HR アリス)

### 『そのとき歴史はうごいた 3 日本の曙・幕末編』コミック版

坂本龍馬についてくわしくわかりました。でも、本によって書き方が違っているので他の本もよんでみようと思いました。

(33HR 女子)

### 『芙蓉の人』 浅田次郎／著

千代子さんが夫の愛する思いが伝わってとてもおもしろかったです。気の強いところがとても印象に残りました。

(25HR 女子)

# 新着図書案内

★印が付いた本は、読書感想文コンクールの課題図書です。  
読みたい本が、貸出中の時は予約してください。  
図書館に所蔵していない本は、リクエストを受け付けています。  
ただし、希望に添えないこともありますのでご了承ください。  
県立図書館の本をお借りすることもできます。

書名	著者名	出版社	請求記号
英検準2級合格！問題集 2019年度版	吉成雄一郎	新星出版社	830/ヨシ
君は月夜に光り輝く	佐野徹夜	KADOKAWA	913/サノ
三国志ビジュアル百科	講談社	講談社	222/コオ
★ザ・ヘイト・ユー・ギヴ	アンジー・トーマス	岩崎書店	933/トオ
★ヒマラヤに学校をつくる	吉岡大祐	旬報社	372/ヨシ
マンガキャラデッサン入門	藤井英俊	西東社	726/フシ
高校一冊目の参考書 改訂版	船登惟希	KADOKAWA	375/フナ
声優という生き方	中尾隆聖	イースト・プレス	771/ナカ
〈弱いロボット〉の思考	岡田美智男	講談社	007/オカ
芙蓉の人 新装版	新田次郎	文藝春秋	913/ニツ
デーミアン	ヘッセ	光文社	943/ハツ
食べごしらえおままごと	石牟礼道子	中央公論新社	596/イシ
文豪ストレイドッグスBEAST	朝霧カフカ	KADOKAWA	913/アサ
マンガで分かる！保育って「いいね！」	大豆生田啓友	ひかりのくに	376/オオ

## 太宰治（だざいおさむ）

太宰は6月に生まれ、6月に亡くなった作家です。『走れメロス』『斜陽』『人間失格』などの作品を読んだことがある人も多いと思います。太宰の生誕を記念して、作品の冒頭を掲載します。興味を惹かれた作品があれば、続きを読んでみてください。（旧仮名遣いを一部改めています）

\* ムカシ ムカシノオ話ヨ  
ミギノ ホホニ ジヤマツケナ  
コブヲ モツテル オヂイサン

このお爺さんは、四国の阿波、剣山のふもとに住んでいたのである。（というような気がするだけの事で、別に典拠があるわけではない。もともと、この瘤取りの話は、宇治拾遺物語から発しているものらしいが、防空壕の中で、あれこれ原典を詮議する事は不可能である。

「瘤取り」

\* どうにかなる。どうにかなろうと一日一日を迎えてそのまま送っていつて暮しているのであるが、それでも、なんとかして、どうにもならなくなってしまう場合がある。そんな場合になってしまうと、私は糸の切れた紙凧のようにふわふわ生家へ吹きもどされる。

「玩具」

\* 言えば言うほど、人は私を信じて呉れません。逢うひと、逢うひと、みんな私を警戒いたします。ただ、なつかしく、顔を見たくて訪ねていっても、なにしに来たというような目つきでもって迎えて呉れます。たまらない思いでございます。

「灯籠」

\* 私は、犬に就いては自信がある。いつの日か、必ず喰いつかれるであろうという自信である。私は、きっと噛まれるにちがいない。自信があるのである。よくぞ、きょうまで喰いつかれもせず無事に過してきたものだと不思議な気さえしているのである。

「畜犬談」